

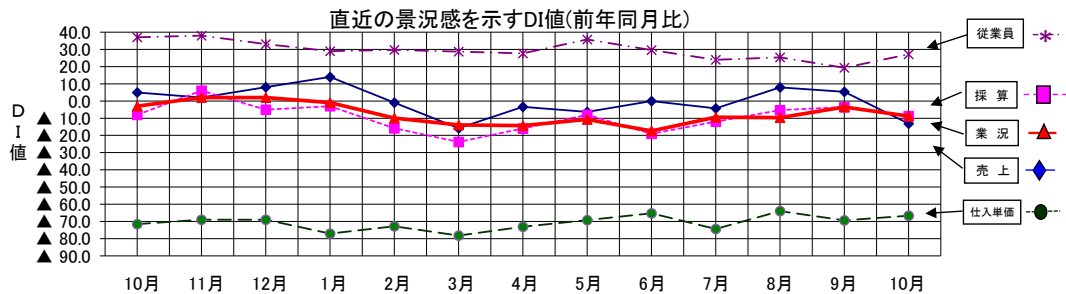
【10月の概要】

売上DIは大幅に悪化、採算DI・業況DIも悪化傾向
先行き見通しは全て悪化し、不透明感が高まる

直近の景況感を示すDI値では、「売上DI」が前月の5.3から▲13.2へ▲18.5ポイント悪化と大幅に悪化し、再びマイナス圏に転じた。「採算DI」や「業況DI」も前月から低下し、全体としてやや悪化傾向がみられる。一方で、「仕入単価DI」は▲69.3から▲66.7へわずかに改善したものの、コスト負担の重さは続いている。「従業員DI」は19.3から27.2へ上昇し、人手不足感が再び強まった。

先行き見通しでは、「売上」「採算」「業況」「仕入単価」の各DIがいずれも前月を下回り、慎重な見方が強まっている。特に「売上DI」は▲11.4ポイント低下と大きく落ち込み、売上は先行きにも陰りがみられる。「従業員DI」は+4.4ポイントの上昇で、人材確保の難しさはなお続く見通しである。

コメントでは、最低賃金改定による人件費負担増を懸念する声が多く寄せられた。加えて、原材料や燃料などの価格上昇が採算を圧迫しているとの指摘が多く、外注先でも人手不足が深刻化しており、コスト上昇に拍車がかかっている。



【直近の景況感を示すDI】 ※DI(景況判断指数: Diffusion Index の略)=(良い割合)-(悪い割合)
※従業員=(不足)-(過剰)

	2024年 10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	2025年 10月
売上	5.0	2.0	8.0	14.0	▲1.0	▲15.8	▲3.4	▲6.3	0.0	▲4.3	7.9	5.3	▲13.2
採算	▲8.0	6.0	▲5.0	▲3.0	▲15.8	▲23.8	▲16.0	▲8.0	▲19.1	▲12.0	▲5.3	▲3.5	▲8.8
業況	▲3.0	2.0	2.0	▲1.0	▲9.9	▲13.9	▲14.3	▲10.7	▲17.4	▲9.4	▲9.7	▲3.5	▲8.8
仕入単価	▲69.0	▲69.0	▲77.0	▲72.8	▲78.2	▲73.1	▲69.2	▲65.2	▲74.4	▲64.0	▲69.3	▲66.7	▲66.7
従業員	37.0	38.0	33.0	29.0	29.7	28.7	27.7	35.7	29.6	23.9	25.4	19.3	27.2

- ・前月比でマイナス幅が減少(改善)したDI値: 仕入単価+2.6ポイント
- ・前月比でマイナス幅が増加(悪化)したDI値: 売上▲18.5ポイント、採算▲5.3ポイント、業況▲5.3ポイント
- ・前月比でプラス幅が増加(悪化)したDI値: 従業員+7.9ポイント(人手不足感が強まった)

【向こう3か月間の先行き見通しを示すDI】

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
8月回答	2.6	▲5.3	▲6.1	▲35.1	29.0
9月回答	11.4	▲3.5	▲5.3	▲41.2	25.4
10月回答	0.0	▲9.7	▲12.3	▲48.3	29.8

- ・前月比で見通しが悪化したDI値: 売上▲11.4ポイント、採算▲6.2ポイント、業況▲7.0ポイント、仕入単価▲7.1ポイント
従業員+4.4ポイント(人手不足感が強まった)

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	電カメンテナンス	人件費や物価の上昇で採算は厳しくなっているが、企業努力により何とか採算を維持している。
	ボイラー	外注業者の人手不足が深刻化しており、その影響と思われる人件費の急上昇が続いている。機械設備の更新やメンテナンス事業では外注先の協力が不可欠で、経営への影響は大きい。
	総合建設	海外から2名の技術者を採用するとともに、中途採用で3名の技術系職員を確保し、人手不足への対応を進めている。建設コストは高止まりしているものの、受注価格への転嫁は進んでいる。
製造業	醤油	醤油の消費量は昭和60年頃をピークに減少が続いており、少子高齢化や食生活の変化などで需要拡大の見込みは乏しい。加えて、原料・燃料・物流コストの上昇に対し価格改定が難しく、経営を圧迫している。
	溶接加工	人手不足の状況が続いているが、仕事の受注は多い。ありがたいことではあるが、仕事量に対して人手が著しく不足している。求人募集を続けているものの、応募がなかなかない。
卸売業	水産物	年末に向けて原材料価格が高騰。しかし、取引先への価格転嫁が思うように進まず、収益を圧迫している。
小売業	医薬品	物価高により、仕入れやランニングコストが上昇している一方、売上は横ばいで、利益が圧迫されている。
	パン	原材料価格の高騰や諸経費の上昇に加え、最低賃金改定によって採算がさらに悪化している。助成金を活用し、設備投資や生産性向上に取り組むことが課題となっている。
サービス業	警備請負	最低賃金の改定により更に人件費コストがアップとなり、作業効率を高める取組みが急務である。DX化を更に進めるための投資も必要で経営環境は依然として厳しいと予想する。
	ソフトウェア	2027年卒に向けた企業説明会やインターンシップが活発に行われているが、学生の動きが年々早まるなか、企業側も対応を迫られている。採用活動にかかる経費に見合う成果が得られるか、不安が残る。

※本コメントは、調査結果の一部を編集・要約したものです。内容の趣旨を損なわない範囲で表現の調整を行っています。

早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 10月分 各業界からのコメント

建設業
人件費増や物価高により採算面では厳しくなっているが、他の面で企業努力をしているので、何とか採算は確保できている。
海外より技術者2名を雇用、また中途採用で、技術系職員を3名用し、人手不足に対応。建設コストは高止まり、但し、受注価格に転嫁も出来ている。工事量（受注・売上・損益）は支店（関東、東北）が新潟を上回る。県外工事が好採算
4年前からの急激なインフレ期間と比して、資機材コストについては徐々にではあるが価格転嫁が進んでいる。労務費、物流費等は引続き上昇傾向にあることや、都市部の建設需要状況によってはエリアであったりタイミングによっては引続き丁寧な交渉が必要である。十分とまでではいけないものの人手の確保ができ始めているが、グループ全体としては特に都心部の採用は厳しさが続いている。
業界全体的な人手不足が感じられる。 我々の本業は機械設備の更新その後のメンテナンスを主に経営を展開し営業を営んでいる。一連の活動においては外注の力を得て行っている、又、外注業者の協力なしでは業務の完遂はできない。 しかし頼りの外注業者の人手不足が深刻化している。その影響なのか人件費の価格が急上昇している、インフレの影響、特殊作業ということもあるが昨年と比較すると倍に近い。すでにクレームも発生している。今後の営業方針を変更し対策しなければならない、現在考案中。
決算処理の真っ最中。新年度を迎え営業活動に邁進中。 新卒採用内定者「0」で採用活動に拍車がかかる。人員不足も深刻、 物価の高騰、借入金利の上昇の動向が気になる。
製造業
醤油の全国的な消費量(出荷量)は昭和60年頃をピークに下がり続けています。生活スタイル、食生活、流通、家族構成、人口減、少子高齢化、コロナ感染症、昔ながらの販売店や飲食店の店じまい等々、需要が伸びる要素がありません。加えて昨今の原料、燃料、物流コスト等の長期的な値上がりが続いておりますが自社製品の価格改定の難しさもあって経営を圧迫しております。業種にもよりますが、好材料が見当たらないのが現状で、世界的な治安や政情不安も他人事ではなく、今後の経済活動がどうなるのか全く予測がつかない中、設備の更新もままならない状況です。昔のような大量生産、大量消費の時代は良かったのかもしれませんが、昨今の「こだわり」や「ストーリー性」にも限界があります。全てが細かくやる事が多すぎます。当社のような工場はある程度の面積が必要ですが、取扱い商品は単価が安く、新潟市の固定資産税は余りにも負担が大き過ぎます。
人手不足の状況が続いているが仕事はかなり入ってきている。ありがたい話ではあるが、仕事量に対して人手が足りなすぎの状態です。求人募集はしていますがなかなか来ないです。
卸売業
年末に向けて原材料価格が高騰。しかし、取引先が適切な価格転嫁を認めないため、収益悪化。
物価高騰
公共資材商いの為、秋に入り降雪前の駆け込み引き合い増える。
小売業
物価高により、仕入れコスト、ランニングコストが上昇。 売り上げが変わらないため、利益が圧迫。 原材料価格高騰、諸経費の上昇に加え、最低賃金改定で採算が更に悪化。 助成金を使い、設備投資 生産性向上が課題 実質賃金が下がり続けており、消費者の節約意識は依然として高い。
サービス業
今年の春から物量が低迷しているのに加え、特に大都市圏においてドライバー不足が深刻となっている。
最低賃金の改定により更に人件費コストがアップとなり、作業効率を高める 取組みが急務である。DX化を更に進めるための投資も必要で経営環境は依然として厳しいと予想する。
2027年卒に向けた企業説明やインターンシップなどが盛んにおこなわれているが、学生の動きが年々早まるなかで企業側も追従する必要があるが、採用に掛ける経費に見合った採用ができるのか不安が残る。
天候が落ち着いてきたことで、利用回数が減少 最低賃金の改定が物価高と相まって厳しい台所事情となるだろう 新規採用も足踏み状態となっている
賃上げ・物価上昇を踏まえると今迄通りとはいかないのが現状である。